

こんな身近なところに
多くの税金が使われ
驚きました

山田さんが税に関心をもったきっかけは、小学6年生の税の標語を考える宿題で『税金で 夢の未来図 広げよう』という標語を考えたと時からです。

「それまで税金が私たちの生活のなかで、どのように使われているのか、子どもの私には興味がありませんでした。宿題をきっかけに調べたり、先生に聞いたりすると、私たちが通う学校をはじめ、道路や橋など身近なところにもこんなに多くの税金が使われていることに驚きと、私たちは社会から将来を任せられ、期待されていることを感じました。そこで私は、税金で、もつと自分たちが住み良いまちにしてほしくて、この標語をつくりました」と山田さんは、税金について興味をもったきっかけを話します。

デンマークを訪問し、税金の使い方の大切さを学びました

「昨年、私の念願だった登別市中学生海外派遣事業の一員として、デンマークに訪問することができました。そこで驚いたのは、医療・社会福祉がとて充実していたことです。デンマークの税金は、所得税が約50割、消費税が25割と日



▲貴重な体験ができた時の中学生海外派遣のメンバー

本よりはるかに高いのですが、その一方で、大学までの学費や医療費、高速道路の利用料金も一部を除いて無料で、税金がみんなのためにしつかり使われていると、ホストファミリーから教えてもらいました。高齢者には生活に十分な年金が出され、24時間の介護体制も完備し、まちに住むすべての方が支えあって生活しています。実際に目にした経験が今回の作文に生かされました」。

将来の希望や夢、大人への自覚の第一歩として、この受賞した作文の締めくくりには『夢の未来図には私たち一人ひとりの自覚が必要』と書かれています。

「デンマークでの体験や今回の受賞は将来への貴重な財産」と話す山田さん自身は、どんな夢の未来図を描くのでしょうか。



KIRARI

やま だ な お こ

山田奈央子さん(美園町)

平成13年11月に国税庁が、全国の中・高校生を対象に募集した『税についての作文』には、全国の約6千校から、40万点を超える作品の応募がありました。

その中から見事、全国納税貯蓄組合連合会優秀賞に選ばれたのは、驚別中学校3年の山田奈央子さんが書いた『税金に込められたおもい』。

山田さんに作文を書いた動機や税金への思いなどを聞きました。

中学生の私たち一人ひとりの自覚で描く『夢の未来図』



昭和61年7月、登別市生まれ。15歳。驚別中学校3年生。平成12年度登別市中学生海外派遣事業の一員としてデンマークを訪問。中学校ではテニス部に所属し、エースとして活躍。